別紙1

北杜市環境保全事業実施報告書

団　体　名	北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会
事　業　名	パーソナル・ゼロカーボンの普及・啓発事業 ～北杜市の自然・景観に負荷を与えない再生可能エネルギーを利活用した、個人（家族等）のレジリエント対策とゼロカーボン・ツーリズムの実証実験～
事業概要	＜目的＞ 本事業は、移動可能な機器により再生可能エネルギー電力を活用し、個人（家族等）の災害時に想定される電力使用の限界を明らかにするものであり、このことによって災害時はもとより日常生活において市民一人一人の取り組みが可能であることを周知し、民生部門のCO2排出削減につなげて行くものであります。また、電気自動車による移動などツアーの随所に再生可能エネルギーによる電気を活用した、水・森・産業・暮らしを訪ね歩くツアーを企画します。このツアーは、在来・外来植物の分布や松枯れなどの実態、湧水・水系の現状把握と保護・対策、水を利用した先端農業や酒・菓子作りなどの店舗・施設をリンクした持続性・事業性のあるツーリズム事業の創設と、再生可能エネルギー利活用の普及・啓発を行うものです。 この事業によって得られる成果は、北杜市の環境保全と地域振興につなげていくものであり、未来を担う市内小・中学校の児童・生徒に対する環境学習に活かされていくものであります。 ＜令和6年度実績＞ 令和5年度に行った実証実験の元、今年度は一般公募により、北杜市民を中心に一般向けにパーソナル・ゼロカーボンの普及啓発体験ツアーを実施します。 ① 体験ツアーの報告 ・事業実施日　令和７年３月１日土曜日 「蓄電池利用実験・作った電気を使ってみよう！」体験ツア

1　収入の部

内　　訳	決　算　額
他の補助金・助成金	0
参加料	16,000
寄付金・協賛金	0
その他	0
小　計(B)	16,000
自己負担金	166,628
合計	182,628

2　支出の部　　（単位：円）

内　　訳		決　算　額
補助対象経費	消耗品費	990
	食料費	15,238
	印刷製本費	5,500
	保険料	21,500
	使用料及び賃借料	139,400
	合　計　(A)	182,628

※　収入の合計と支出の合計は一致させること

補助金交付額(G)

93,000円	G＝（A－B）×　2/3	ただし、補助金交付決定額以下

ー

八ケ岳コモンズ（旧清里小学校）会場集合

快晴の良い天気の中、一般参加９人（1 親子（大人 2 子ども 2）、1 夫妻、個人 3 人）

会員参加７人　合計 16 人で体験ツアー開始。

【体験①】あらかじめ85%充電してある蓄電池に、ソーラーパネルから充電を始める。昼食用のご飯を炊飯器で炊くために、蓄電池から電気を使ってスイッチを入れる。実際に充電し、電気を使う様子を見ながら、質疑応答をする。

【体験②】マイクロバスを利用して、北杜市村山六ヶ村堰水力発電所の見学と電気自動車トゥクトゥク乗車体験に出かける。水力発電所の見学と、トゥクトゥクの乗車体験は、貴重な体験として喜ばれた。太陽光発電と水力発電の違いがわかる見学となった。

清里という観光地での電気自動車の貸し出しは、環境に配慮し、体験することで、関心を持つことができた。

【体験③】八ケ岳コモンズ教室に移動して、太陽光で発電した電気で炊いたご飯と、レトルト食を順にお湯で温めて昼食とした。蓄電池を電源としてお湯をつくるが、電気ケトルとIH調理器の2台が同時に稼働すると蓄電池のブレーカーが落ちて、電気が使えなくなることも、やってみてわかったことである。

【体験④】EV自動車のメリット、デメリットについて、実際に車を所有する会員から話を聞く。途中車の電気を使ってお湯を沸かし、お茶を飲む。

【座学】電気の基礎から、注意点を理解して、一日を振り返り質疑応答の時間とした。太陽光発電が少しでも現実的に考えられるものとなったようである。漠然とした存在の太陽光発電、エネルギーの選択について、具体的な理解が進んだことは目的を果たしたと思われる。